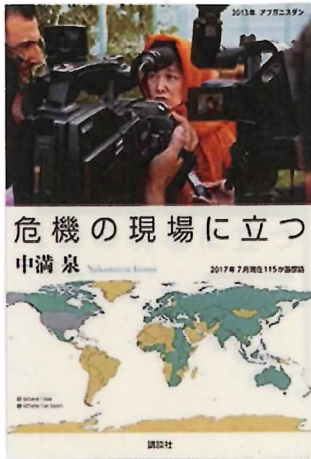


よんでネット*

夏号

発行口茅ヶ崎市立図書館／協力口茅ヶ崎図書館子どもの本の会

「危機の現場に立つ」 中満泉



危機の現場に立つ
中満泉

講談社
〔32ナ〕

女性で、二人の娘の母で国連職員の中満泉^{なかみつ いずみ}、日本人。紛争や自然災害など危機の現場に立ち、殺されかねない交渉に挑む。彼女は、仕事用のスーツの下にはおぐ洗えるTシャツしか着ない。娘たちがケチャップや絵の具だらけでとびついて来た時に抱きとめて「大好き!」と伝えたいからだ。その思いは難民キャンプの女性や子どもたちを助けたいという熱意につながる。国連のことがもっと知りたくなった。

「なくなりそうな世界のことは」

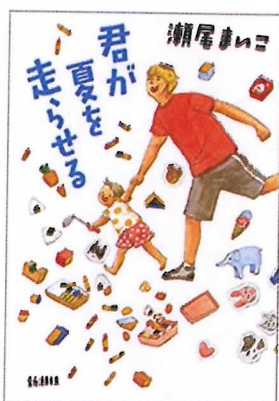
吉岡乾/著 西淑/イラスト

世界で使われている言葉は、およそ7,000。でも、中には使う人がいなくなり、いつか消えてしまう言葉もある。例えば、ロシアの「ウイльта語」。1年の半分以上が雪と氷に閉ざされるこの地方では、降っている雪、木の上に積もった雪など雪を分類する言葉がいくつもある。だが、今はウイльта語を話す人は、世界に10人しかいない。失われつつある言葉の1つ1つに、人々の文化がある。



創元社
〔802ヨ〕

「君が夏を走らせる」 瀬尾まいこ



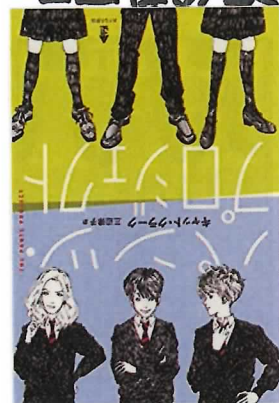
新潮社
[9136セ]

金髪にピアスの俺が、先輩の二歳の子 鈴香の世話をするなんて… なんとかひと夏を無事に乗りきれれば！ 16歳の少年太田は、最初の三日間 鈴香にふりまわされ、二人とも疲れはてて寝てしまう始末だった。けれど、それから少しずつ育児のしかたをおぼえ、公園で遊ばせながらママ友までできた。やがて、鈴香とのドタバタも苦しさから楽しさに変わり、彼自身大きく成長していく。

「パンツ・プロジェクト」 キャット・クラーク

三辺律子/訳

女子はスカート、男子はズボン。そんな校則って誰が決めたの？ リヴは、今までズボンしかはいたことがないのに、この中学の校則に従ってスカートをはかないといけなくなった。マジでカンベン！ だから、女子でもズボンで登校できるように パンツ・プロジェクトを立ち上げた。皆賛成してくれると思ったのに署名運動はイマイチ。そこでリヴが考えた次の手は？



あすなろ書房
[933ク]

「アラルエン戦記① 弟子」 ジョン・フラナガン/作 入江真佐子/訳



岩崎書店
[9337]

ウィルは アラルエン王国の孤児院で育った、小柄だがすばしっこい少年。15歳の選抜の日、けんがや中間のホラスは、希望どおり 戦闘学校の校長に選ばれ見習い生になったが、ウィルは謎に包まれたレンジャーホールトに指名されてしまった。実はホールトは、15年前の元領主モルガラスによる謀反を失敗に終わらせた伝説のレンジャーだった。そして、今またモルガラスは凶暴な猛獣カルカラを操り、復讐をたくらんでいた…。

現在11巻まで 続きも刊行中。